

4/17
朝日

自民草案 平和守る決意ない

無職

(東京都 83)

本紙連載「憲法を考える 自民政憲草案」を読んだ。一番感じたことは、自民

党の憲法改正草案には過去についての反省がないことだ。平和を守る決意がないことだ。

現憲法は、日本人だけでも300万人以上の人が犠牲になった惨憺たる戦争の反省の上に立って起草された。戦争が起こったのは、明治憲法の下で戦争に反対する個人から言論・思想の自由を奪ったからである。

自民政憲草案には、その反省がない。

それどころか、「国民」を「国家」と変えることで国家主義に戻り、軍備を持つて戦争ができるようにしているとしか思えない。

戦争をして一般国民にどんな良いことがあるのか。武器の発達で多数の犠牲者が出ることは間違いない。自民政憲草案を起草した人たちは、おそらく先の戦争の本当の悲惨さを知らないのだろう。

敗戦後、せつかくここまで発展できたのに、それを帳消しにしてはならない。70年、戦争を防いでくれた現憲法に感謝し、戦争はせず、外国にも攻めさせない外交力を発揮してもらいたい。